人道的義憤から

菊樂女史談

現代の社會的生活をなしつゝある人にして多少其生活內容を研究し其の社會的生存の意義に就て考察する時は其の自己の生活が人類の社會的生存の目的と餘りに相違ひの中に彷徨して居る事を發見するであらう。人類永遠の目的は高貴なる文化の無限追及であると考へられて居る、而して文化の享樂者は彼等の社會的に必要なる物資の生產者でなくして生產者の生活の必要品を生產して日夜營々たる勤勉と努力の爲めに身体を勞する生活者は文明を生む可き動力ではあるが、其の原動力者は人類生活の目的たる文化の享樂に參加し得ぬと云ふ事は如何に考へても不合理であらねばならぬ。實際今日の勞働工業に依る生產事業の急激なる發達と共に人類の文化と云ふものは長足の進歩を遂げた、乍併此の文明の進歩と文化の發達は果して多數の生產者の生活を向上せしめ充實せしむるに何の貢獻を爲したのであらうか。歐洲大戰は我國をして世界三大强國の一とせしめ、廿億の正貨を

の生產こそ依據すべき筈なのである。物資の生產者は不幸にして文明の進歩に依り何等幸福の增進生活の向上を享受するなく却て之を退化せしめ劣惡ならしめて居るのである。これ近代人の思想が懷疑的となりつゝある所以である。吾等の立場は今日の社會的生活樣式即ち資本主義組織の根本的缺陷を指摘し其の改善を促し以て多數民衆即ち有産なる生產者に與へられる勞働者本位の社會制度を建設し人類の幸福を增進せしめんとするものである。個人者は社會主義者を目して社會人の生活を現へるものと見なして甚だしき誤解を加へつゝある。然も吾等の信念は今日の資本制度が如き場合と雖も高く熱と光りとを發して之れを爲す時と二つある。西亞の革命は其後者に屬するもので其の變性も可なり大きなもの。吾等の行動は人道的義憤の發露自己の生活を熟慮するに基因するもの。

度は吾々が其慨歎に對しては大に讃美する事を禁じ得ざるものである、王政の復古後に德川三百年の權力、頓朝以來七百年の覇業を覆へすだに容易なる事業ではなかつた、況んや有史以來の人類の生活の誤謬を發見して之を矯正し正しき社會の實現の困難なるは到底其比では、り得ない、其誤れる水き生活は人類の性質を一變した而も今や現代資本主義制度の誤謬と缺陷とは何人も承認せざるを得ない程迄に成つて來た、之れ無て其崩壞を來す可きを物語るものであらう、乍併歷史的の制度は大なる潛勢力を有するもので吾等の所期する社會の實現は爲ほ遠い傾向を以てすれば案外に近いかも知れぬ、何れにせよ今日の組織惡に因る吾人の生活苦惱を去り新社會の實現に依り各人が其の生活容を豐富にする日の遠かならん事を望みて已まざるものである、凡そ社會變革には二の樣式があるが如き結果となつて鐵の本質を極めて徐々に變化せしめ、素にて燃焚する